

2019.09.22 第4主日礼拝

ネヘミヤ 1:1-11 「座して流す聖なる涙」

聖書

- 1 ハカルヤの子ネヘミヤのことば。第二十年のキスレウの月に、私がスサの城にいたときのことであった。
- 2 私の兄弟の一人ハナニが、ユダから来た数人の者と一緒にやって来た。私は、捕囚されずに残された逃れの者であるユダヤ人たちについて、またエルサレムのことについて、彼らに尋ねた。
- 3 彼らは私に答えた。「あの州で捕囚を生き残った者たちは、大きな困難と恥辱の中にあります。そのうえ、エルサレムの城壁は崩され、その門は火で焼き払われたままです。」
- 4 このことばを聞いたとき、私は座り込んで泣き、数日の間嘆き悲しみ、断食して天の神の前に祈った。
- 5 「ああ、天の神、主よ。大いなる恐るべき神よ。主を愛し、主の命令を守る者に対して、契約を守り、恵みを下さる方よ。
- 6 どうか、あなたの耳を傾け、あなたの目を開いて、このしもべの祈りを聞いてください。私は今、あなたのしもべイスラエルの子らのために、昼も夜も御前に祈り、私たちがあなたに対して犯した、イスラエルの子らの罪を告白しています。まことに、私も私の父の家も罪を犯しました。
- 7 私たちはあなたに対して非常に悪いことをして、あなたのしもべモーセにお命じになった、命令も掟も定めも守りませんでした。
- 8 どうか、あなたのしもべモーセにお命じになったことばを思い起こしてください。『あなたがたが信頼を裏切るなら、わたしはあなたがたを諸国の民の間に散らす。
- 9 あなたがたがわたしに立ち返り、わたしの命令を守り行うなら、たとえ、あなたがたのうちの散らされた者が天の果てにいても、わたしは彼らをそこから集め、わたしの名を住まわせるためにわたしが選んだ場所に連れて来る。』

10 これらの者たちこそ、あなたがその偉大な力と力強い御手をもって贖い出された、あなたのしもべ、あなたの民です。

11 ああ、主よ。どうかこのしもべの祈りと、喜んであなたの名を恐れるあなたのしもべたちの祈りに耳を傾けてください。どうか今日、このしもべに幸いを見させ、この人の前で、あわれみを受けさせてくださいますように。」そのとき、私は王の献酌官であった。

はじめに

今、礼拝でバビロン捕囚後のイスラエルについて学んでいます。エズラ記とエステル記を終えましたので、今日からネヘミヤ記に入ります。ネヘミヤはペルシア王の献酌官でした。献酌官とは王の飲み物の毒見をする人ですから、王から絶大な信頼を得ていたことが分かります。このような地位にユダヤ人が就くこと自体、神さまが共におられることの証であり、すばらしいことです。異国ペルシアの地にいたネヘミヤが、故郷エルサレムの現状を聞いたとき、彼はいったいどんな態度を取ったのでしょうか。彼が取った行動からネヘミヤの心を学びたいと思います。

1. まず座ること

捕囚から解かれて帰還した人たちによってエルサレム神殿は再建されました。ネヘミヤがエルサレムの現状を聞いたのは、再建から 70 年後のことでした。「あの州で捕囚を生き残った者たちは、大きな困難と恥辱の中にあります。そのうえ、エルサレムの城壁は崩され、その門は火で焼き払われたままです。」(3 節) という悲惨な状況を耳にするのです。

このとき、ネヘミヤはまず「座り込んで泣いた」(4 節) のです。私たちの耳に何か重大なニュースが飛び込んで来たとき、真っ先にすることは何でしょうか。ある人は問題の解決のためにすぐに行動するでしょう。行動することは大切ですが、その前にすべきことがあります。それが「座る」ということです。クリスチャンが「座る」ということばを使うとき、それは神さまの前に出て座ることを意味します。問題の一切をご存知でご自分の手の中にす

べてを納めておられる神さまの前に静かに座ることです。ネヘミヤは何と「数日間も嘆き悲しみ、断食して天の神に祈った」(4節)のでした。問題の種類によっては、そんなに長く座ることができないこともあります。しかし、たとえ短くても、神さまに思いを向け座ることを最優先にしなければいけないのです。座り、立ち上がり、歩くというこの流れを身に着けることが問題に正しく対処する鍵となります。

2. 祈りと涙

ネヘミヤは神さまの前に座り、涙を流して祈りました。その祈りの内容が5~11節に記されています。私たちがお祈りするとき、誰に向かって祈っているのか分かるように、相手の名前を呼びます。例えば、「神さま」とか「天のお父さま」とか「イエスさま」とか呼びかけて祈り始めます。ネヘミヤの祈りの呼びかけは、とても興味深いのです。この呼びかけの中に、ネヘミヤが神さまをどう理解していたかが表されています。「ああ、天の神、主よ。大いなる恐るべき神よ。主を愛し、主の命令を守る者に対して、契約を守り、恵みを下さる方よ。」(5節)と呼びかけています。主の命令を守る者には必ず約束を守ってくださる方であり、恵みを注いでくださる方、それが私たちの信じる神さまであることを証しています。

私たちも祈るとき、呼びかけのことばに注目して祈ってみましょう。「あわれみと慈しみ深いイエスさま」、「赦しと恵みに富んでおられるイエスさま」、「どんなときにも共にいてくださるイエスさま」、「すべてを最善になしてくださる神さま」、「私に勝利を与えてくださる神さま」など、そのときの状況に応じて呼びかけを変えてみるのです。そうすることで、問題のただ中におられる神さまを意識することができ、力を得ることができるのです。

そしてもう一つネヘミヤの祈りの特色は涙です。ネヘミヤに限りませんが、聖書には祈りと涙はセットになって出て来ます。祈りは単に願い事を告げるだけではありません。心の中の思いをありのままに注ぎ出すのが祈りの本質です。ネヘミヤは過去のイスラエルの罪を告白し、悔い改めと神さまのあわれみを願いました。それは涙なくして祈れないほど辛いものでした。“私たち

は大きな過ちを犯した者です。しかし、そのような者であっても、あなたの民であり、あなたのしもべではありませんか。どうか、私たちをあわれんでください”と祈る姿は、まさにイエスさまが私たちのために祈ってくださる姿そのものです。イエスさまがエルサレムを見て涙を流されたように、ネヘミヤも涙を流しました。私たちは祈るとき、どんな涙を流すでしょうか。その涙は神さまの前に聖なる涙となって届けられるのです。

3. 日本人のために涙を流そう

今日の礼拝にウェールズから Jim Pickering さんとスコットランドから Mark Beckett さんをお迎えしています。心から歓迎します。と同時に心から感謝します。ラグビーW 杯というスポーツイベントを通してイエスさまのことを日本の人たちに伝えたいという熱い思いを持って来てくださいました。昨日はスコットランドチームによるラグビー教室が計画されていましたが、前日の天気予報で雨の確立が 80%でしたから、中止を決定しました。しかし、当日の天候は曇りで、ホームページで中止は伝えてありますが、もしかして会場に来られる方がいるかもしれないということで、会場に行きましたら 2 組の親子とサッカーのコーチがおられ、ラグビーの体験を待っていたのです。急ぎょ、ウェールズチームに応援を頼み、ラグビー教室を行いました。スコットランドチームの皆さんには、せっかくの機会をお届けできなくて申し訳なく思っていますが、こうしてこの礼拝にお迎えでき心から感謝しています。

日本の救いのために、涙を流し祈り、遠くウェールズから、スコットランドから来てくださる皆さんの心に触れたとき、私たち日本人が日本人に伝えなくて誰が伝えるのだろうかと思いの強くしています。日本人の救いのために涙を流すそのような教会になりたいと思います。ラグビーW 杯という世界大のスポーツイベントの恵みに与るだけでなく、これを機会に人々の救いのために、座し、立ち上がり、歩み出す教会でありたいと願います。

結び

ネヘミヤの涙の祈りに私たちの現状を重ねてみましょう。私たちには祈る

べき戦いがたくさんあります。心を注ぎ出して祈りましょう。その祈りに神さまは必ず答えてくださいます。「民よ。どんなときにも、神に信頼せよ。あなたがたの心を神の御前に注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」（詩篇 62:8）。私たちの祈りに答えてくださる神さまに信頼して、祈り続けましょう。